

令和元年度 第4回大田区自転車活用推進委員会 議事要旨

- 1 日 時 令和2年1月17日（金）午前10時から正午まで
- 2 会 場 大田区産業プラザ6階 D会議室
- 3 出席者 「委員名簿」のとおり
- 4 報 告
 (1) 第3回委員会のまとめ

意見なし

- 5 議 論
 (1) 先行施策の現状と今後に向けて

屋井委員長	先行施策とは計画策定前から、区民に理解や協力をいただきながら先行的に進める施策であり、計画策定後も継続するというものなので、大田区が実施する事業もあるが、広く関係者や区民の方と連携をとって進めていただけるとよいと思う。
萩山委員	はねびょん健康ポイントのアプリは英語などの外国語に対応しているのか。インバウンドを考えたとき、開発の進む羽田空港や天空橋にはポートが多くあった方がよいと思う。 また、旅行者が羽田空港から大田区を通過して別の場所に行くというだけでなく、旅行者が大田区で滞在していただくという形を、自転車を通じて作った方がよいと思う。そのためにはねびょん健康ポイントアプリが英語対応となって、旅行会社と連携して紹介されるようになるとより活用されるのではないか。
佐々木（信）委員	はねびょん健康ポイントのアプリは、現在、外国語の対応をしていない。今後の研究課題だと考えている。 インバウンドの関係での取り組みとしては、アプリで区の観光ルートを掲載している。様々な観光場所を楽しみながら巡っていただくことを行っている。
谷田川委員	コミュニティサイクルについては、英語表記のパンフレットを作っており、訪日外国人の方に自転車で大田区を巡ってもらう、又は他区に移動してもらうような取り組みを進めている。 はねびょん健康ポイントは、あくまで「健康」の視点で作ったアプリであり、多言語化については主に観光国際都市部の所管になると思うので、今後、庁内で議論することだと考えている。
屋井委員長	自転車についても、はねびょん健康ポイントのアプリに加えていただけるとありがたい。 観光客については、はねびょん健康ポイントのアプリでなくてもよいので、観光地を巡るということの紹介ができるとよいと思う。観光協会などと連携が取れるとよい。

樋口副委員長	<p>大田区では 18 出張所それぞれで、イベントを行っているので、各出張所にイベント等での連携を打診してほしい。自転車活用での連携を進めることが交通安全などのいろいろな面で役に立つと思う。</p> <p>連携についてお聞きしたい。</p>
谷田川委員	<p>先行施策は活用推進戦略の中で一步踏み出す施策なので、まずは来訪者が多い場所、賑わいがある地域を絞って先行施策を行って、その後、他の地域に波及させていくということを考えている。</p>
佐々木（信）委員	<p>はねびょん健康ポイントの普及について、12月の開始時から今月時点で3,000人の登録者がある。今年度の目標は1万人登録であるため、3月末までの目標達成には、頑張りが必要だと考えている。</p> <p>18の各地域に健康政策部の職員が回っており、そのたびに好評をいただいている。配布しているパンフレットなどに職員の名刺を添えており、ご不明な点についてはお問い合わせいただければ、説明に伺う。</p>
屋井委員長	<p>はねびょん健康ポイントのパンフレットを見ると、景品が当たるということはある。</p> <p>横浜市では、歩いていけば参加者全員の歩数が毎月ある一定水準を超えたら、協賛している企業が途上国の支援のためのお金を出すという取り組みをしている。</p> <p>横浜市で高齢者にアンケートすると欲しいものがないという意見が見られ、それよりも、歩くことで健康になり、社会貢献につながるということに共感していた。</p> <p>大田区でも、ニーズの高い高齢者の見守りや、子どもの見守りで、地域を歩くことを推奨する仕組みやポイントの設定などを考えるとよいと思う。</p>
室谷委員	<p>散走の先行施策については、シマノは各種データや他地域の事例を持っているので、お役に立つのであれば提供したい。</p> <p>自転車健康に良い理由や健康に良い乗り方を少しでもレクチャーし、はねびょん健康ポイントも使いながら散走をできれば、はねびょん健康ポイントの登録を増やししながら、各ポイントを巡ってもらえると思う。区民の皆様にも知ってもらうことがまず重要だと思う。</p> <p>すでに区民参加型のイベントは多くあるので、そういったイベントではねびょん健康ポイントや自転車活用を紹介しながら、区民参加を進めていくとよいと思う。</p>
河野委員	<p>はねびょん健康ポイントのアプリでは、自転車に乗って移動しているかどうかを判断できるのか。</p> <p>移動手段に自転車を設定している人が自転車で常に移動しているわけではないと思う。稼働率をどのように把握する予定なのか。</p>
佐々木（信）委員	<p>アプリがあくまで歩数ベースで設計されているので、自転車に乗ることは歩数としては反映されない。自転車による移動を反映するかについては研究しながら進めていきたいと考えている。</p>

	稼働率は把握できないが、アプリの目標設定で自転車に関する目標を設定している人の数を把握することはできる。
屋井委員長	この委員会で内容を検討することは難しいと思うが、自転車による移動の反映については今後検討してほしい。 また、特定の場所に行くことでポイントが得られる仕組みもあるので、決められたコースを通ることで、歩数換算はできると思う。
北方委員	アプリを普及させていくためには、情報発信のために紙面だけでなく、若い人たちに SNS などを通じた情報発信が必要だと思うが、そうしたことは行われているのか。 アプリでは景品を提供するだけでなく、企業などに協力をいただいて、区内の保育園に本をプレゼントするなどの寄付のような社会貢献できる仕組みがあるとよいと思う。 散走についてはマップがあるとよいと思う。マップ上に危険箇所などを表示すると安全の観点でもよいものになると思う。
佐々木（信）委員	若い方々への PR については、ツイッターでも情報発信している。 社会貢献の面で、地域力応援基金や子ども生活応援基金や、勝海舟基金などの既存の区にある基金に協力できるような仕組みを検討中である。 また、現状は個人での登録にとどまっているが、来年は事業所単位での参加についても検討を進めている。 散走にあたっての危険箇所の注意喚起については、現在は歩きスマホの注意喚起の表示をアプリで行っている。それ以外の具体的な危険箇所を表示することについては、アプリの中で反映できる余地があると考えてるので、ご意見をお寄せいただきたいと思っている。
屋井委員長	個人個人で社会貢献を選択するというのもよいが、地域や企業、ある年齢層などで協力して目標達成のために頑張るとしても考えていただきたい。
事務局	計画策定後に行う施策の中で、はねびょん健康ポイントのアプリと散走を絡めて活用してもらうことを考えている。また、先行施策でも散走による観光について案として示している。 今後、どこかモデルとなる地区を選んで、そこで危険箇所等も含めた観光マップを作成したいと考えている。 散走のモデルルートとしてよい場所があれば教えていただきたい。
谷田川委員	今年度は、モデルとなるルートを設定して、施策を進めていかなければならないと考えており、それを進めるにあたって協力をいただける地区が必要だと考えている。
屋井委員長	本門寺のあたりなどは魅力的なエリアであり、自転車走行空間も整備されているのでよいと思う。
室谷委員	散走はただ走るだけでなく、地域の文化や魅力を知ってもらうものなので、本門寺などの魅力的な場所や地域で参画したいという人がいるところで、実施するとよいと思う。

樋口副委員長	池上地域では、まちづくり協議会が観光向けの危険箇所マップを作った。参考にさせていただければと思う。
萩山委員	観光マップの中に、コミュニティサイクルの情報を乗せたほうがよいと思う。また、空気が抜けるなどのトラブルに対応できるように、サポートできる自転車店の情報を乗せたほうがよいと思う。
屋井委員長	自転車店は何店舗ぐらいあるのか。
萩山委員	活動状況は分からないが、大体2kmに1店舗はあるものだと思う。区の自転車店を巻き込んで、そこではねびょん健康ポイントのアプリを紹介してもらえば、利用者も増えるのではないかな。
屋井委員長	そういったことへの自転車店の関心を聞く機会はあるのか。
萩山委員	総会などで、支部長に話して、各支部の自転車店に伝えてもらうという方法があると思う。
屋井委員長	ぜひ支部長にお話しいただいて、検討会の場でご意見いただきたい。

(2) 活用推進の施策検討について

福田副委員長	臨海部のサイクリングルートについて、大田区で現在都市計画マスタープランの改定をしているので、自転車活用に関するハード整備について連携させるとよいと思う。 参考資料にあるオススメスポットでも、臨海部のあたりのスポーツ施設などがいくつか回答されている。さらにルート開発のポテンシャルがありそうな場所として京浜運河沿いや中央防波堤、城南島、昭和島が考えられる。
室谷委員	自転車での観光についてはOVEや尾道のU2などの拠点が今後重要になる。ただし、ハコモノを作っても中身がないことや地域の連携がないこと、海外客の受け入れができないことを危惧している。 今後拠点を作るということになれば、拠点づくりのノウハウを共有したいと思う。
屋井委員長	自転車に乗る人にとっては、拠点や目的地、立ち寄り場所などがはっきりしていた方がよい。臨海部にはそうした場所はないのか。
谷田川委員	大田スタジアムや海辺の散策路などがある。 都市計画マスタープランの中で自転車をどのように位置づけるのかや、臨海部についてどのように情報発信していくのかについても、今後庁内で検討していきたい。
柏原委員	羽田空港に広島空港にあるようなバイシクルハブを設置して、海外からの観光客に臨海部を自転車で巡ってもらおうといったことを長期的な視点で考えてもよいのではないかな。
屋井委員長	羽田空港のどこに置くとよいのか。
柏原委員	国際空港の天空橋側にあると一番よいと思う。

屋井委員長	自転車の組み立ては現地のできるの、部品を置かせてもらう場所があればよいと思う。しかし羽田空港では、そこで組み立てて出発する人が現状いないのではないかと。ほとんどが地方空港に行くと思う。
室谷委員	どこの地域でもゲートウェイとなる場所が必要。伊豆ではゲートウェイができてから、渋滞も減った。 自転車施策をやろうとしている自治体はどこもゲートウェイの整備を考えている。
屋井委員長	ただ、羽田空港は地方に自転車を持ち込む場所であって、羽田から自転車に乗って移動する人は少ないのではないかと。もっと地元の魅力が必要だと思ふ。魅力があれば空港でも整備が進めやすいと思ふ。 まずは、走行環境の整備などができて、長距離のサイクルルートが他自治体でもできてくるとよいと思ふ

(3) 自転車活用推進戦略(仮)の位置づけと骨子(案)について

屋井委員長	スケジュールとして年度内に骨子を固めるということによいか。 また、骨子とは活用推進戦略を策定するうえでの方向性を示したものであるという理解によいか。
事務局	はい、基本的な方向性を示したものである。 今は、基本方針は(仮)としているが、計画の構成としてはこの内容で策定したいと考えているので、ご確認いただきたい。
屋井委員長	名称も活用推進戦略となるかどうかはわからないが、方向性を示したものであるということ。名称等についても今後慎重に検討したい。
柏原委員	計画の期間として、短期、中期、長期とあるが、どのくらいの長さで計画スパンを考えているのか。推進戦略は10年間の計画でその中での短期、中期、長期ということによいか
事務局	次期自転車等総合計画の10年間の中での、短期、中期、長期となる。 来年度の活用推進委員会では、役割分担と推進に向けたスケジュール、推進体制について議論していただく予定である。
松本委員	臨海部の中央防波堤については、大田区の帰属が確定し、地名も決まる中で、計画でも検討する必要があるのではないかと。
谷田川委員	中央防波堤については、今後、大田区としてどのように活用していくかという戦略が示されてくると思ふ。そこへの交通手段について企画調整担当課と連携しながら取組みを進めたい。
屋井委員長	次期自転車等総合計画のスケジュールと活用推進戦略の骨子の位置づけについて、簡単に説明してほしい。
事務局	まず、活用推進戦略(仮)の骨子を3月末に確定する。 来年度の第1回自転車活用推進委員会は5月20日に予定し、確定した骨子案を元に主要施策の役割分担やより詳細なスケジュールの確認をしたうえ

	<p>で、その後に予定している駐車対策協議会で議論し、夏ごろに次期自転車等総合計画の素案を確定して、秋口にパブリックコメントを行い、来年度末には次期自転車等総合計画を策定したいと考えている。</p>
屋井委員長	<p>来年度は、何か調査を実施するのか。</p>
事務局	<p>既存のイベント等での聞き取り調査でニーズ把握を行うことを考えている。</p>
屋井委員長	<p>骨子案を作っているのだから、公表するなどして、広く意見が頂けるような状況にしておくとうい。</p>
谷田川委員	<p>補足として、活用推進戦略の骨子案については、今後自転車活用推進委員会で議論をいただくことが、3回しかない中で、議論を進めるためにたたきとして作ったものである。</p> <p>骨子案をより充実したものにするために3月末までご意見をいただいて、4月に議会に提出するということも考えられる。</p>
屋井委員長	<p>2年間で作っている計画なので、じっくり作った方がよい。</p> <p>骨子案であれば確定しているものでないので、意見があれば、変えられるような状態で進めていくとういと思う。</p>
河野委員	<p>サイクルベースについては、骨子に盛り込まれる施策なので、組合としてはできればありがたい。</p> <p>区内において自転車拠点のニーズが高いということ把握したうえでの施策なのか、拠点を作れば人が来るという考えでのものなのかを教えてください。</p> <p>多摩川の飲食店には自転車乗りが集まっているが、キングスカイフロントにある自転車乗り向けの店にはあまり人がいないと思う。</p> <p>区内や大田区周辺の類似の施設にヒアリングをしてもよいと思う。</p>
室谷委員	<p>これからの観光ビジネスにおいて、人口減少社会では観光による交流人口を増やすことが重要だと考えられている。</p> <p>尾道と今治を結ぶ大三島に、巨大な自転車拠点を2拠点整備している。先行してサイクルタクシー、サイクルサポートカーを完備している。地方は需要に対して供給が追い付いていない。</p> <p>色々課題はあると思うが、日本の玄関口である大田区に何も無いのは悲しいと思う。大田区内の魅力を再発見して区民自身が誇りある街づくりが全国をつなぐ場所として必要だと思う。</p>

以上